

# とらすと通信

— 営業のご報告6月号 —

# 2024

託された未来をひらく



三井住友トラスト・グループ

100<sup>th</sup>  
Anniversary

# トップメッセージ

株主の皆さまには、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。  
「とらすと通信」をお届けするにあたり、謹んでご挨拶申し上げます。

取締役執行役社長（CEO）

高倉 透



## 1. 業績の振り返りと株主還元について

2023年度の実質業務純益は、法人与信関連を中心とした手数料関連利益の増加に加え、株高・円安などの市況要因も追い風となり、2023年10月に上方修正を行った予想を上回り、前年度比140億円増益の3,386億円となりました。

親会社株主に帰属する当期純利益は、前年度比1,118億円減益の791億円となりました。これは、政策保有株式が株価下落時に資本へ与えるマイナス影響をヘッジするために保有している日本株ベア投信のポジション縮小・再構築を行ったことによるものです。株式等関係損益が前年度比1,915億円の減益となった一方、将来の利益目標達成の確度は向上しました。

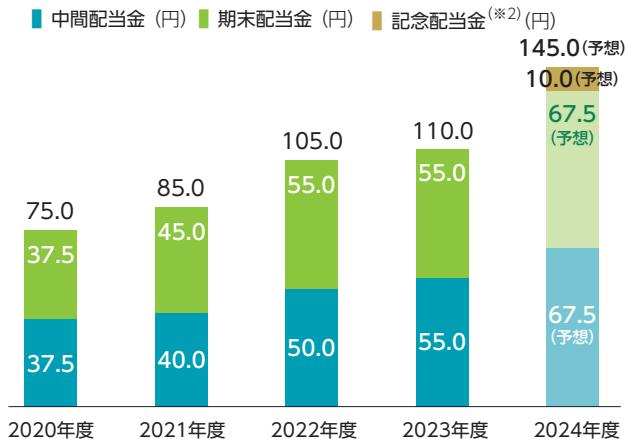
2023年度（通期）の普通株式配当金については、本業の堅調に加え、日本株ベア投信の売却損計上は評価損から実現損への振替であり資本十分性に懸念がないため、2022年度比5円増配の1株当たり110円をお支払いいたします<sup>(※1)</sup>。2024年度は、増益予想の親会社株主に帰属する当期純利益2,400億円（連結）を前提に、グループ創業100年を記念した1株当たり10円の記念配当<sup>(※2)</sup>も実施することから、2023年度比35円増配の1株当たり145円の予想といたします<sup>(※1)</sup>。

## 株主還元方針

一株当たり配当金は累進的としつつ、利益成長を通じた増加を目指します。連結配当性向40%以上を目安に決定します。

なお、自己株式取得については、資本十分性の確保を前提として、中長期的な利益成長に向けた資本活用と、資本効率性の改善効果とのバランスを踏まえつつ、機動的に実施いたします。

### 1株当たりの配当金<sup>(※1)</sup>と連結配当性向



### 連結配当性向

39.5%	37.7%	40.2%	100.6%	43.5% (予想)
-------	-------	-------	--------	------------

(※1) 2024年1月1日を効力発生日とする株式分割（2分割）を加味した調整後の金額で表示しております。

(※2) 2024年度記念配当金は、中間・期末それぞれ1株につき5円の計10円を予定しております。

## ■ 商号変更について

当グループは、2024年4月に創業100年を迎えました。「託された未来をひらく」存在として、これまで以上にグループが一体となって新たな「挑戦」と「開拓」に取り組み、全てのステークホルダーのWell-being向上に貢献する企業となるため、10月1日付で商号変更を行います。

【新商号(英文表記)】 **三井住友トラストグループ株式会社**  
(Sumitomo Mitsui Trust Group, Inc.)

## 2. 中期経営計画の進捗について

中期経営計画の初年度にあたる2023年度は、資産運用・資産管理を軸とした信託グループらしいビジネスモデルで、当グループの「ありたい姿」の実現に向けた取り組みを進めました。社会課題解決と市場の創出に貢献し、2030年度までに Assets Under Fiduciary<sup>(※)</sup> (以下、AUF) を800兆円まで拡大することを目指しています。

2023年12月には、資産運用ビジネス高度化に向けた取組方針を公表いたしました。グループ各社の自律的な運用力向上とともに、多様で実力のある運用会社とのパートナー化を進めています。2030年度までに累計で最大5,000億円を、主にグローバルな運用力・顧客基盤の獲得や新興マネージャーへの投資等に積極的に投下していく方針です。資産運用ビジネスのさらなるガバナンス高度化や人材育成も一層加速し、政府の「資産運用立国」構想に対し、業界をリードしてまいります。

個人のお客さまには、三井住友信託銀行の資

産管理アプリ「スマートライフデザイナー」と、住信SBIネット銀行の利便性の高いサービスを相互にご利用いただける「三井住友信託NEOBANK」を開始いたしました。また、三井住友信託銀行は、超富裕層ファミリーの資産管理サービスに加え、幅広いジャンルにおいてコンシェルジュサービスを提供する株式会社PrivateBANKと資本業務提携いたしました。

法人のお客さまには、ESGやサステナブル経営への取り組みが重要となる中、三井住友信託銀行において、環境・低炭素転換の専門知識を豊富に有する世界最大のサステナビリティ専門コンサルティング企業であるERMグループと、気候変動対策のサービス提供に向けた合併会社を設立し、4月に事業開始しました(9ページもご覧ください)。国際競争力を意識したコンサルティング及びソリューションを提供し、お客さまの企業価値向上への貢献と我が国の脱炭素化促進を目指してまいります。

(※) Assets Under Fiduciary：当社が社会課題解決と市場の創出・拡大に貢献する取り組みの規模を示す残高(指標)

### 3. 今後の取り組みについて

---

信託会社を起源とする当グループは、不動産関連業務、銀行業務と機能を拡張し、投資家と事業者のそれぞれの想いに直接触れ、双方のニーズを結びつけてきました。その中で培った、お客さまの意思決定支援や需要創造に貢献する「アドバイザリ」、高品質な運用商品を提供する「資産運用」、アドバイザリや資産運用を支えるプラットフォームである「資産管理」機能について、三位一体で一層の磨きをかけ、資金・資産・資本の好循環の実現を加速してまいります。今年度は、脱炭素をはじめとする社会課題を解決する領域に資金用途を限定した元本補てん付きの信託商品を新たに導入する予定です。お客さまのリスク許容度に応じたリターンが見込める運用商品の開発・提供を進

め、資産形成に貢献するとともに、AUFを拡大させてまいります。

このビジネスモデルの重要な土台となるのが「フィデューシャリー」です。お客さまから信じて託される、お客さまの想いを実現するフィデューシャリー（受認者）として、お客さまの最善の利益を追求し、期待を超える水準まで、ガバナンスや業務品質を高度化してまいります。

また、我が国の人口減少が加速し、物価上昇も進む中、当グループが持続的成長を確実に遂げるには、デジタル技術を活用した抜本的な業務プロセス変革による生産性向上や、適正な商品・サービス価格への見直しによる採算性向上が不可欠であり、注力してまいります。

### 4. 株主の皆さまへ

---

幾度となく訪れた歴史の転換点を乗り越え、創業100年を迎えることができましたのも、ひとえに私たちを支え、応援して下さったステークホルダーである株主の皆さまのご支援の賜物と考えており、心より感謝申し上げます。現在、皆さまに当グループをより深くご理解いただき、感謝の意を表すさまざまな取り組みを、グループ一体で進めております。100周年は、社員一人ひとりが主役となり、当グループのアイデンティティや挑戦と開拓の歴史を知り、当グループで働くことに自信ややりがいを感じ、次の100年に向けた「挑戦」のムーブメントを起こす機会として取り組んでいます。

時代の要請から「信じて託せる会社」として生まれた当グループは、幅広い「信託」の機能を活用することで社会課題を解決し、時代の変化に沿って、新たな価値を創造してまいりました。

日経平均株価が過去最高値を更新し、日本銀行のマイナス金利政策の解除等、日本経済はデフレからの完全脱却に向けた大転換期を迎えています。世の中が大きく変わる今こそ、「信託の力」を發揮し、豊かな未来づくりに貢献してまいります。

株主の皆さまには、今後とも一層のご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

# 業績ハイライト 2023年度決算の概要（連結）

## 三井住友トラスト・ホールディングス（連結）

（単位：億円）

	2022年度	2023年度	増減
実質業務純益 <sup>*1</sup>	3,246	3,386	+ 140 ①
実質的な資金関連の損益 <sup>*2</sup>	3,006	2,899	△ 106 ②
手数料関連利益	4,493	4,788	+ 295 ③
その他の利益（外貨余資運用益除く）	641	1,053	+ 411
総経費 <sup>*1</sup>	△ 4,895	△ 5,354	△ 459
経常利益	2,858	1,013	△ 1,845
親会社株主に帰属する当期純利益	1,910	791	△ 1,118 ④
与信関係費用	△ 104	△ 118	△ 14
自己資本当期純利益率（自己資本ROE）	6.93%	2.68%	△ 4.25%
1株当たり当期純利益（EPS） <sup>*3</sup>	258円57銭	109円16銭	△ 149円41銭

（単位：億円）

	2023年3月末	2024年3月末	増減
総資産	690,227	758,769	+ 68,541
純資産	28,225	31,376	+ 3,151
1株当たり純資産（BPS） <sup>*3</sup>	3,843円26銭	4,316円76銭	+ 473円50銭

## 三井住友信託銀行（単体）

信託財産残高	256兆円	257兆円	+ 1兆円
--------	-------	-------	-------

※1 実質業務純益・総経費は、持分法適用会社の損益等も考慮した社内管理ベースの計数です。

※2 実質的な資金関連の損益は、「資金関連利益」に「その他の利益」に含まれる外貨余資運用益を加算したものです。

※3 2024年1月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施いたしました。2022年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり当期純利益及び1株当たり純資産を算出しております。

① 実質業務純益は、法人与信関連を中心とする手数料関連利益が好調に推移したことに加え、株高・円安など市況要因も追い風となり、2023年10月に上方修正した予想3,300億円を上回る実績となりました。

② 実質的な資金関連の損益は、前年度計上した債券ベア投信解約益の剥落及び、調達コスト増加を主因に前年度比106億円の減益となりましたが、海外金利上昇のピークアウトに伴い調達コストの悪化幅は底打ちしています。

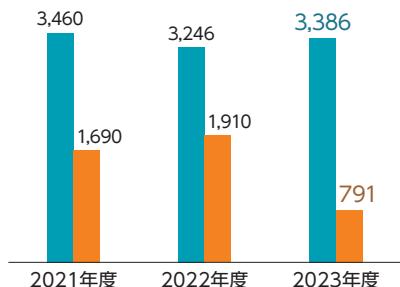
③ 手数料関連利益は、前年度比295億円の増益となりました。法人与信関連手数料が好調に推移したことに加え、好調な市況要因により資産運用・資産管理関連が増益に寄与いたしました。

④ 親会社株主に帰属する当期純利益の減益は、政策保有株式の株価下落リスクをヘッジするために保有する日本株ベア投信のポジションの縮小・再構築を行ったことを主因とするものです。なお、本業の堅調に加え、日本株ベア投信の売却損計上は評価損から実現損への振替であり資本十分性に懸念がないため、年度配当は期初予想通り1株当たり110円<sup>(※)</sup>をお支払いいたします。

(※) 2024年1月1日を効力発生日とする株式分割(2分割)を加味した調整後の金額で表示しております。

## 実質業務純益

■ 親会社株主に帰属する当期純利益  
(億円)



## 経費率（OHR）<sup>\*</sup>

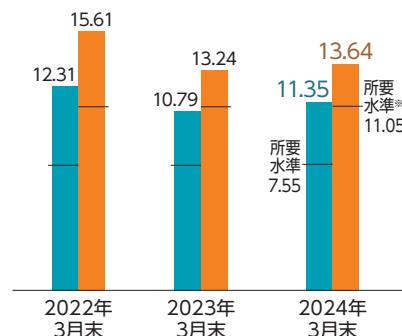
■ 総経費（億円） ■ 経費率（%）



※経費 ÷ 実質業務粗利益

## 自己資本比率等

■ 普通株式等Tier1比率  
■ 総自己資本比率  
(%)



※所要水準：銀行法等により定められた水準のこと

2024年4月、三井住友トラスト・グループは、おかげさまで創業100年を迎えました。  
今号より、100年の歴史や100周年事業に関する私たちの取り組みを複数回にわたって特集します。



**貸付信託が戦後復興、高度経済成長に貢献**

戦後復興の途上にあつた日本では、電源開発や船舶建造などの緊急で重要な設備資金と直結する資金調達の仕事が必要としていました。そこで信託業界は、1952年から独自商品として開発し販売した「貸付信託」を通じて、戦後復興と高度経済成長を支える設備資金供給者となりました。

日本の経済成長の一翼を担った造船所風景  
(1955年頃、豊洲の東京石川島造船所)  
写真提供：東京都港湾振興協会

1950年代

1930年代

1920年代

**三井信託創業 (1924年)**

信託法・信託業法に基づくわが国初の信託会社として創業

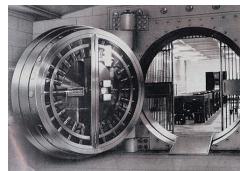
**住友信託創業 (1925年)**



三井信託本店ビル  
三井本館

**お客さまの大切な財産をまもる**

関東大震災を経験し、改めて財産管理の重要性を痛感したことから、堅牢な大金庫を設置し、貸金庫及び保護預かりの保管業務を開始しました。



保管業務用金庫 (住友大金庫)

100周年  
トピックス

**ブランドスローガンの策定、100周年特設サイトの開設**

2023年10月、当グループの創業100年に向け、お客さまや社会から「信じて託される」尊さと、「未来への願い」に応えるという私たちの強い意思を表すブランドスローガンとして、『**託された未来をひらく**』を策定しました。

また、本ブランドスローガンの世界観や当グループの想いを皆さまに知っていただくために、15秒のテレビCMと60秒のブランドムービーを作成しました。

100周年事業に関する私たちの取り組みについては、100周年特設サイトに随時公開している他、三井住友信託銀行公式YouTubeにも公開していますので、是非ご覧ください。



100周年特設サイト

## ビッグの時代

1981年、新型貸付信託「ビッグ」の募集を開始しました。

運用収益が再運用されることにより高利回り（貸付信託の予想配当率による半年複利）を実現し、金利選好を強めていたお客さまの間で大きな人気を呼びました。

その後も実績配当型の金銭信託「ヒット」など、信託の機能を活かした貯蓄・運用商品が誕生していきます。

つよい、つよい、前1.5倍。



「ビッグ」パンフレットと信託総合口座通帳（三井信託銀行）

## 三井住友トラスト・グループ誕生



経営統合の最終合意記者会見に臨む住友信託銀行 常陸均社長（右）と中央三井トラスト・ホールディングス 田辺和夫社長（左）

住友信託銀行と中央三井トラスト・ホールディングスは、経営基盤の強化により一層の社会的責任と公共的使命を果たすとともに、高い専門性と幅広い業務分野を発揮することを目指して2011年に合併し、三井住友トラスト・ホールディングスが発足しました。

2024年  
100周年

1960年代

## 中央信託 創業（1962年）

### 年金信託の始まり

高度経済成長期の労働力確保や福祉増進に対応するため、企業（団体）の従業員が安心して働ける福利厚生制度を実現すべく、企業向けの適格年金などの取り扱いを開始しました。

その後も時代のニーズに合わせ、積立型の個人年金信託、確定拠出年金、各種企業年金や公的年金の資産の運用・管理などに業務範囲が拡大していきます。



年金信託勧誘のための広報誌（中央信託銀行）

2011年

2000年代

1980年代



aibo シンジル&タクセル エディション

## 環境・金融教育で社会課題解決に貢献

社会奉仕的な財産管理機関としての側面も持つ信託銀行では、創業以来社会貢献を重要な指針としており、2000年代には環境・金融教育やSRIファンドの取り扱いを開始しました。



SDGs活動としての出前授業（環境教育）風景

## 三井住友信託銀行各店舗でロビー展を開催

日本における信託の歴史が、私たちの歴史です。私たちは信託の可能性を追求することで、お客さまの時代ごとの課題解決や夢の実現に取り組んできました。また、三井住友信託銀行の各支店は、そのまちの発展とともに成長してきました。

100周年を機に、私たちの数々の挑戦と歩みを振り返るポスターを作成し、2024年4月から各店舗にてロビー展を開催しています。また、各店舗が所在するエリアの変遷を掲載したポスターも掲示しています。

各店舗にお立ち寄りいただける機会がございましたら、ぜひご覧ください。



和歌山支店の様子。P13では和歌山支店を紹介していますので、ぜひご覧ください。

# 株主さまとのコミュニケーション広場



## WEBアンケート結果をご報告いたします

前回発行の2023年12月号にて実施しましたアンケートでは、多くの株主の皆さまからご回答をいただき心より感謝を申し上げます。頂戴しました貴重なご意見について、以下の通りご報告とご回答申し上げます。



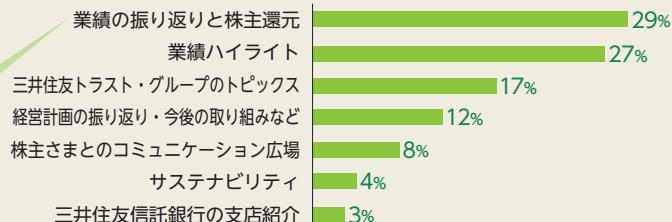
回答者数

4,133名

Q

「とらすと通信」で最も興味のある記事をお選びください。

関心が高かったコンテンツとして、「業績の振り返りと株主還元」「業績ハイライト」などが上位を占めました。



## お寄せいただいた皆さまの声にお答えします

Q

社会貢献活動に期待しています！どのような活動をしていますか。

社会課題解決型ビジネスを標榜する当グループでは、「将来世代」への金融教育、文化・芸術・スポーツの支援、寄附やボランティア活動などの社会貢献活動に取り組んでいます。例えば、三井住友信託銀行では、認定特定非営利活動法人ファミリーハウスと協働し、タオルで「くま」を作るボランティア活動に取り組み、200名近くの役員・社員が参加しました。制作したタオル「くま」は、都内の専門病院で難病の治療を受ける子どもたちとそのご家族へ届けられます。



Q

未来適性に向けた人的資本強化について、グループ内の副業とありますが、具体的にどのような仕組みでしょうか？

グループ内副業は、現勤務先に在籍しながら、グループ内の他会社（以下、副業先）を兼務し、一定期間、週の所定労働時間のうち決められた時間について、副業先での業務に従事していただく仕組みです。本枠組みは新たな働き方を取り入れ、複数業務を兼務することにより、社員の自発的なキャリア形成を支援するとともに、グループ内の連携強化によるイノベーションの促進を目的としています。

例えば、グループ会社の人事部担当者が三井住友信託銀行人事部を兼務し、Well-being推進担当として社内外交流による情報収集や好事例発信、企画立案等の業務で活躍しています。このように、単に「学ぶ・経験する」だけでなく、「現勤務先で培った能力の副業先での発揮」及び「副業先で培った能力の現勤務先への還元」の両立を目指しています。

# 三井住友トラスト・グループのトピックス

## — グループ会社の取り組み —

### 日興アセットマネジメント

#### “投資信託メーカー”が語る 資産運用ガイドウェブサイトを開設

日興アセットマネジメント（以下、NAM）は、2024年3月、資産運用会社の知見で投資信託に関する知識を分かりやすく整理したウェブサイト「投資信託で作る自分の未来 前を向く人の20年後 Lab.（ラボ）」を開設しました。

当サイトでは、資産運用を「正しく始めて、長く頑張る」ための知識やファンド選びのポイントなど、ずっと使える資産運用の知識を「投資信託のメーカー」の立場からお伝えします。本質的かつ実践的な資産運用ガイドとなることを目指して、NAM社員自らがコンテンツを執筆し、運営していますので、ぜひご覧ください。（URL：<https://www.nikkoam.com/20lab>）



### 三井住友トラスト・アセットマネジメント

#### 新NISAの特設ページを開設・CMを配信

三井住友トラスト・アセットマネジメント（以下、SMTAM）は、運用会社として、2024年1月から新NISAに向けた各種取り組みを開始しました。

新NISAに対応した投資信託の販売促進として「世界経済インデックスファンド」と「半導体関連 世界株式戦略ファンド」の新CMを作成し、TVCM、YouTube、交通広告、TVer等で配信したほか、SMTAMホームページ上に「新NISA」についての説明や、「投資タイプ診断」ができる特設ページを設置しました。本特設ページでは、これまでのNISAと新NISAの変更点をわかりやすく説明する、「新しいNISA制度」の動画も掲載しています。動画は三井住友信託銀行各支店のロビーでも放映されており、深く資産形成について学べる内容となっていますので、ぜひご覧ください。



## 三井住友信託銀行

### 『京都・北山杉 PR BOOK』を刊行

三井住友信託銀行は、2024年1月、京都市等と協力して、北山杉の歴史や魅力、活用事例をまとめた『京都・北山杉PR BOOK』を制作・公表しました。

京都市北区中川地区で生産される北山杉は、約600年の歴史を誇る銘木であり、それらが織りなす素晴らしい風景は、京都のみならず日本が誇る貴重な自然資本です。現在まで脈々と受け継がれてきた北山林業の伝統技術と、その結晶ともいえる北山杉ブランドの維持継承は、京都の歴史を受け継ぐことや日本の木造建築、木の文化のさらなる発展につながると考えています。今後も、信託の力を活用して持続可能な地域社会の実現に貢献していきます。



ニュースリリース

## 三井住友信託銀行

### 脱炭素社会の実現に向け新会社を設立

三井住友信託銀行は、2024年2月、世界最大のサステナビリティ専門コンサルティング企業であるERMグループとの合弁会社「ERM SuMi TRUSTコンサルティング株式会社」の設立を発表し、同年4月に事業を開始しました。

本事業を通じて、ERMグループのサステナビリティに関するグローバルな専門知識と、三井住友信託銀行の金融インフラ機能を組み合わせ、法人のお客さまに対して気候変動・脱炭素分野における質の高い調査・分析・コンサルティングを提供し、お客さまの企業価値向上、日本経済の脱炭素化促進を目指していきます。



詳細はHPをご覧ください。

## 三井住友トラスト・ホールディングス 朝日杯将棋オープン戦閉幕

三井住友トラスト・ホールディングスが特別協賛し、昨年6月に予選が始まった「第17回朝日杯将棋オープン戦」が2月10日について決勝を迎え、永瀬拓矢九段が見事初優勝を果たしました。今後もさまざまな形で文化の発展に貢献していきます。



(左から) 高倉透三井住友トラスト・ホールディングス社長、永瀬拓矢九段 提供：朝日新聞社

## 住信SBIネット銀行

### 開発パートナーとして参画した 「JALマイレージバンクアプリ」リリース

住信SBIネット銀行は、最先端のテクノロジーと金融ノウハウを活用したBaaS (Banking as a Service) の提供に注力しています。この取り組みが評価された結果、決済機能をはじめ、さまざまな機能をスマートフォンアプリ上に集約する「JALマイレージバンクアプリ」の開発パートナーに選ばれました。2023年11月にリリースした同アプリは、JALマイレージバンクの会員証の提示に加え、スマートフォン決済サービスの「JAL Pay」をはじめとした各種決済方法でマイルを貯めることができる等、便利な機能を提供しています。今後も革新的なサービス開発に努め、顧客体験の向上を目指していきます。



ホーム  
画面

JAL Pay  
画面

マイルチャージ  
画面

## 三井住友トラスト・ システム&サービス

### 子ども向け無料プログラミング 体験教室を開催

三井住友トラスト・システム&サービスは、2023年11月、拠点を構える東京都府中市の府中市民協働まつりに新入社員ら18名が参加し、「プログラミングロボットを使った子ども向け無料プログラミング体験教室」を開催しました。予約待ちが出るほどの盛況で、体験された皆さまから沢山の喜びの声を頂戴しました。

また、特設ブースでの特別企画「公開インタビュー 実践例から協働を知る！」に井茂尊博社長（当時）が登壇し、2023年6月にシニア向けに開催した「パソコン・スマホ教室」や本教室を紹介し、当社のSDGs活動を市民の方々に知っていただきました。



プログラミング体験教室の様子



井茂尊博社長(当時) 登壇

# 三井住友トラスト・グループのトピックス — グループ会社の取り組み —

## 三井住友トラストクラブ



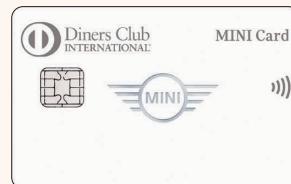
### ダイナースクラブ 大阪梅田プレミアムラウンジ開業

2024年3月14日、ダイナースクラブ直営の会員専用ラウンジが、東京銀座に続き、待望の関西エリアで開業しました。大阪梅田の阪急グランドビルの2階、三井住友信託銀行梅田支店に隣接する、ショッピングやビジネスに便利な立地です。ソフトドリンク提供やフリーWi-Fi、手荷物預かり、充電器の貸出など会員様向けサービスも充実していますので、会員の皆さまはぜひお立ち寄りください。



### MINI ダイナースカード発行

三井住友トラストクラブとビー・エム・ダブリュー・ジャパン・ファインスは2009年から「BMW ダイナースカード」を発行するビジネスパートナーです。近年、BMWグループの英国プレミアム・ブランド「MINI」の提携カード発行への期待の声が多く寄せられる中、そのニーズにお応えするため、両社が協業し、MINIオーナー向けのオリジナルサービスを取り揃えて2024年4月1日から発行開始しました。上質な白い券面にMINIのロゴをホログラムであしらう印象的なカードデザインも好評です。



### ふるさとときめきプロジェクト

ダイナースクラブならではの目利き力を活かし、その地域でしか出会えない個性豊かな魅力や価値をお届けする「ふるさとときめきプロジェクト」を2024年5月から開始しました。本プロジェクトでは「食」と「体験・交流」を大きなテーマとして、ダイナースクラブ会員様向けの企画（下記は一例です）を提供します。本内容はホームページでも掲載しますので、ぜひご覧ください。

<企画>

- 食：その土地ならではの食材のお取り寄せを通じて、地域の魅力を紹介。
- 体験・交流：伝統行事への参加、歴史的建造物での宿泊体験など、現地に送客して地域経済の活性化をサポート。



ふるさと  
ときめき  
PROJECT



詳細はホームページ  
をご覧ください。

## 社員の一日を紹介します！



### 喜友名 優佳

(提携営業部／提携推進第1チーム)

#### 主な業務内容

提携カードの新規獲得や運営管理を担当しています。入会キャンペーンの組成から、提携先を訪問しセールス方法を説明するカード販売サポートまで獲得業務全般に携わり、提携カードの基盤及び収益拡大に取り組んでいます。

### タイムスケジュール





## 三井住友信託銀行 支店紹介

当グループがお客さまにとって一番身近な企業と感じていただけるよう、三井住友信託銀行の支店の特徴や、社員からお客さまへのメッセージをご紹介します。

### 和歌山支店

#### 地元電力会社と共同で小学生向けSDGs出前授業を実施

和歌山支店では、小学生に脱炭素社会を知ってもらうために、地元電力会社と共同でSDGs出前授業を実施しています。

授業では、銀行に預けたお年玉が環境にやさしい投資につながっていることを風力発電に関する実験やクイズを交えて説明します。毎回体験型の授業に子どもたちは大喜びで、楽しみながらSDGsについて学んでいます。



出前授業の様子

#### 【渡辺支店長から皆さまへメッセージ】

SDGs出前授業はこれまで6回開催し、同活動は2023年度「和歌山市ベストSDGsアクション奨励賞」を受賞することができました。授業を通じて、子どもたちが環境問題を他人事ではなく、自分事として考えるキッカケになればと思っています。

今後も地域の皆さまと一緒に持続可能な街づくりに貢献することを目指していきます。



渡辺支店長



#### 「With you支店ブログ」で支店の活動を紹介中

こちらから、地域での活動やイベント情報など取り組み事例がご覧いただけます！



#### ご当地イチ押しスポット

#### 和歌山城 一暴れん坊将軍、吉宗公を輩出した紀州徳川家の居城一

徳川御三家の一つで、徳川吉宗（第8代）、家茂（第14代）の二人の将軍を輩出した紀州藩紀州徳川家の居城です。姫路城、松山城と並ぶ日本三大連立式平山城の一つに数えられ、壮大な石垣には紀州特産の青石（緑泥片岩）が多く使われています。現在は、本丸と二の丸一帯が公園として開放され、天守閣に登れば和歌山市街や、紀の川がゆったり流れているのを一望できます。

なお、和歌山支店では毎年秋に和歌山城清掃を実施しており、同活動は事業者の自主的な清掃活動として、和歌山県より「わかやまごみゼロ活動」に認定されました。



## 会社概要

商号	三井住友トラスト・ホールディングス株式会社 <英語表記：Sumitomo Mitsui Trust Holdings, Inc.>
設立	2002年2月1日
資本金	2,616億872万5,000円(2024年3月31日現在)
本店所在地	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 ☎ 03-6256-6000 (代表)
上場証券取引所	東京 (プライム市場)、名古屋 (プレミアム市場) 証券コード：8309

## 株式の状況 (2024年3月31日現在)

発行可能株式総数	890,000,000株 <sup>(※)</sup>
発行済株式の総数	普通株式 728,051,680株
株主数	普通株式 87,394名

(※) 2024年6月20日の株主総会決議により1,740,000,000株に引き上げとなりました。

## 配当金を「配当金領収証」で受領されている株主さま

配当金を銀行等の預金口座へ入金する手続きをしていただきまずと配当金支払開始日に株主さまご指定の口座に振り込まれ、迅速かつ安全・確実に配当金をお受け取りいただくことができます。

振込手続きをご希望の株主さまは、お取り引きされている証券会社もしくは上記株式についてのご案内に記載の三井住友信託銀行株式会社証券代行部へお申し出ください。

## 株式についてのご案内

決算期	3月31日
配当金受領 株主確定日	中間配当金 毎年9月30日 期末配当金 毎年3月31日
単元株式数	100株
公告掲載方法	電子公告により行います。 (電子公告のサイトのURLは、 <a href="https://www.smth.jp/">https://www.smth.jp/</a> です) ただし、事故その他やむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
株式事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 ● 郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 ● 電話照会先  0120-782-031
会計監査人	有限責任 あずさ監査法人

## ウェブサイトのご案内

当社の詳細はウェブサイトでご覧いただけます。



表紙写真：北海道 斜里町  
「天に続く道」

自然環境保護をテーマとした写真を表紙絵に採用しています。斜里町はナショナル・トラスト運動先駆けの地となっています。